ぶらりわが街宮沢界隈

（44）西川製糸創業者旧別邸「蔵」国の登録有形文化財（建造物）に登録

○ 名称:「西川家旧別邸蔵」
○ 住所:昭島市中神町 2－6－18
○ 構造:鉄筋コンクリート造 2 階建（切妻屋根、桟瓦葺）
○ 建築時期:大正後期
○ 登録:平成 28 年（2016）11 月 29 日

・**「西川家別邸」**－明治 26 年（1893）から昭和 18 年（1943）5 月 31 日製糸業から撤退にかけ、国内屈指の製糸会社だった「西川製糸」創業者の西川伊左衛門、後に「製糸王」と呼ばれた（安政 4 年（1857）9 月 4 日～昭和 1936）2 月 27 日満 78 歳で死去）によって来客接待兼隠居用として大正 11 年（1922）～12 年頃に工場の南、崖下に建てられ大正時代の名建築の一つと言われる。母屋は東京都に寄贈、平成 5 年（1993）3 月開園した「江戸東京たてもの園」都立小金井公園内に移築し公開されている。

＊別邸母屋の設計・施工者の大工棟梁（とうりよう）「浅見良助」－宮沢町（2－36）に生まれ一代で大工になった人物で地元の旧家や阿弥陀寺の旧薬師堂なども手掛けている。

・**「旧別邸蔵」－**伊左衛門のひ孫で「蔵」を所有する西川知恵子さん（86）の自宅敷地内にあり、地元に現存する唯一の建造物。別邸の家具、道具などを保管するために使われていた。「本格的な鉄筋コンクリート造り建築として初期のもの」貴重として、昭島市は法政大学デザイン工学部の高村雅彦教授に調査を依頼して、平成 26 年（2014）11 月から実測調査などを進め、国の有形文化財登録を申請。文化審議会が答申を行い正式登録。今後は、「蔵」を生かした「西川製糸シルク博物館」建築構想も検討される。

○ 庭の池を改良「ヘイケボタル」が舞う水辺－別邸前の「中沢堀」には、ゲンジボタルが生息、毎年 6 月頃にはホタルが観察されたが、段々わずかしか見られなくなり、西川知恵子さんは「ホタルを楽しめる水辺を作りたい」と。そして、東京ホタル会議副議長井上務氏に相談し協力を得て、平成 24 年（2012）から車いす生活で、自宅を改築した際には、池は手入れが難しため、枯山水にしていた。庭に穴を掘り、地底と側面をコンクリートで整備。自宅から昭島の水道水を池に導入し、ヘイケボタルの幼虫とカワニナを放流した。
見事にホタルが飛翔（ひしょう）する姿が見られた。さらに 2 つの池を追加。毎年 6 月中旬に庭園で「ホタルの鑑賞会」などで、暗闇に数多くの光が輝いたホタルがみられる。

○ 西川知恵子さんは、地域に貢献する活動や、趣味などの分野で意欲的に挑戦する 70 歳以上の高齢者をたたえる「第 16 回ニューエルダーシチズン大賞」読売新聞賞平成 28 年（2016）10 月 14 日受賞。－35 歳の時、脊髄腫瘍（せきずいしゅよう）に侵（おか）され、下半身が動かなくなった。以来、車椅子生活 50 年を続けながら、自宅内の移動を一人でこなし、さらに外出には愛車を運転。生活の自立を目指し、水泳など様々なスポーツに挑戦。2001 年「車いすダンス昭島」を結成、小中高校や老人ホーム、地域の行事などでダンスを披露。60 歳の時、結婚のため中退した大学に入り直し、自らハンドルを握る車で、往復 4 時間かけて休まず通学。大学院へ進み、英語が堪能でシェークスピア研究に力を入れた。

＊「西川製糸」については「（24）養蚕（ようさん）・蚕種（さんしゅ）・製糸）（せいし）－Ⅵ－製糸工場の隆盛」記載
＊西川知恵子さんのご自宅にて面談し、貴重な証言・資料・写真の複写など大変協力していただきました。
＊参考文献:資料「西川製糸」昭島市教育委員会、読売新聞

（写真上から）西川家旧別邸母屋、西川家「旧別邸蔵」、西川知恵子さんとホタル舞う「池」、「登録有形文化財」登録銘板

（文・写真）防犯宮沢支部　西山　禎一